へ13
3689
22

門 へ13
號 3689
巻 22

金華七變化

第廿弐轉

上之巻

鶴亭秀賀 撰
楳蝶樓國貞 畫
金松堂壽梓

東洲

金華七變化第貳拾貳編換序

何ぴとの大約言の物語ひゝ日記のうちゆゑ年ふる猫の怪紙なせゝ由誌されう然べ迚人も知める嵯峨の奥彼金華猫の物語と御伽草紙とゝしめ紛んねと猫の評判も先ハチウとゝ鼠鳴縁起もよしと雀躍ひつ猶も此編等ゞ肝心要と休息ゝ似ふる勘考も更ゝ埒さ不明の間雨夜ゝ暗き捜り書漸稿脱る其折しも金松堂よりの小僧来ゝ校合さえも麁漏ゝ先一編を渋して其催促を塞ぎぬ

春霞樓北窓の下ゝ

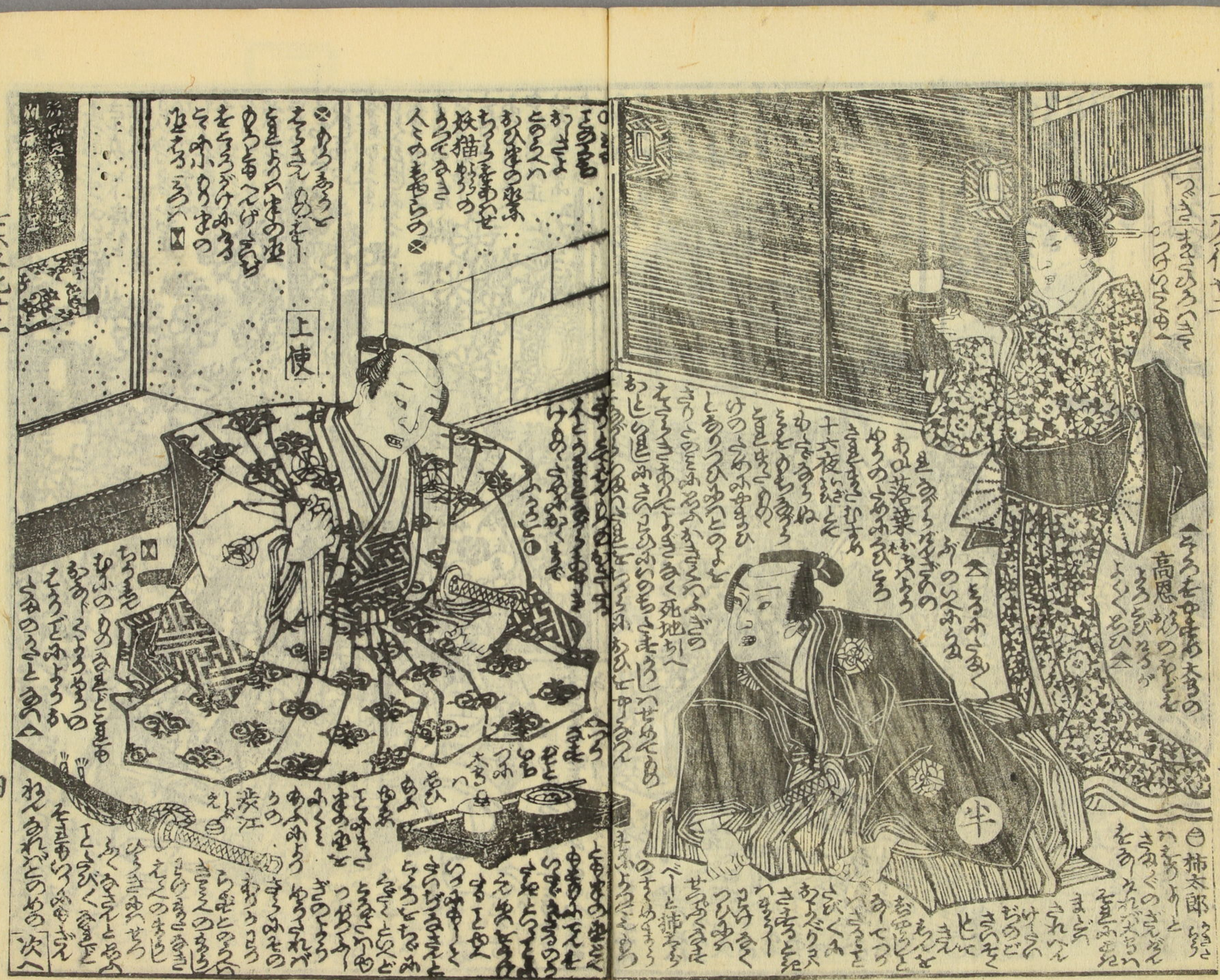
鶴亭秀賀戯述

○大守義弘
○藻の花お南の方
：

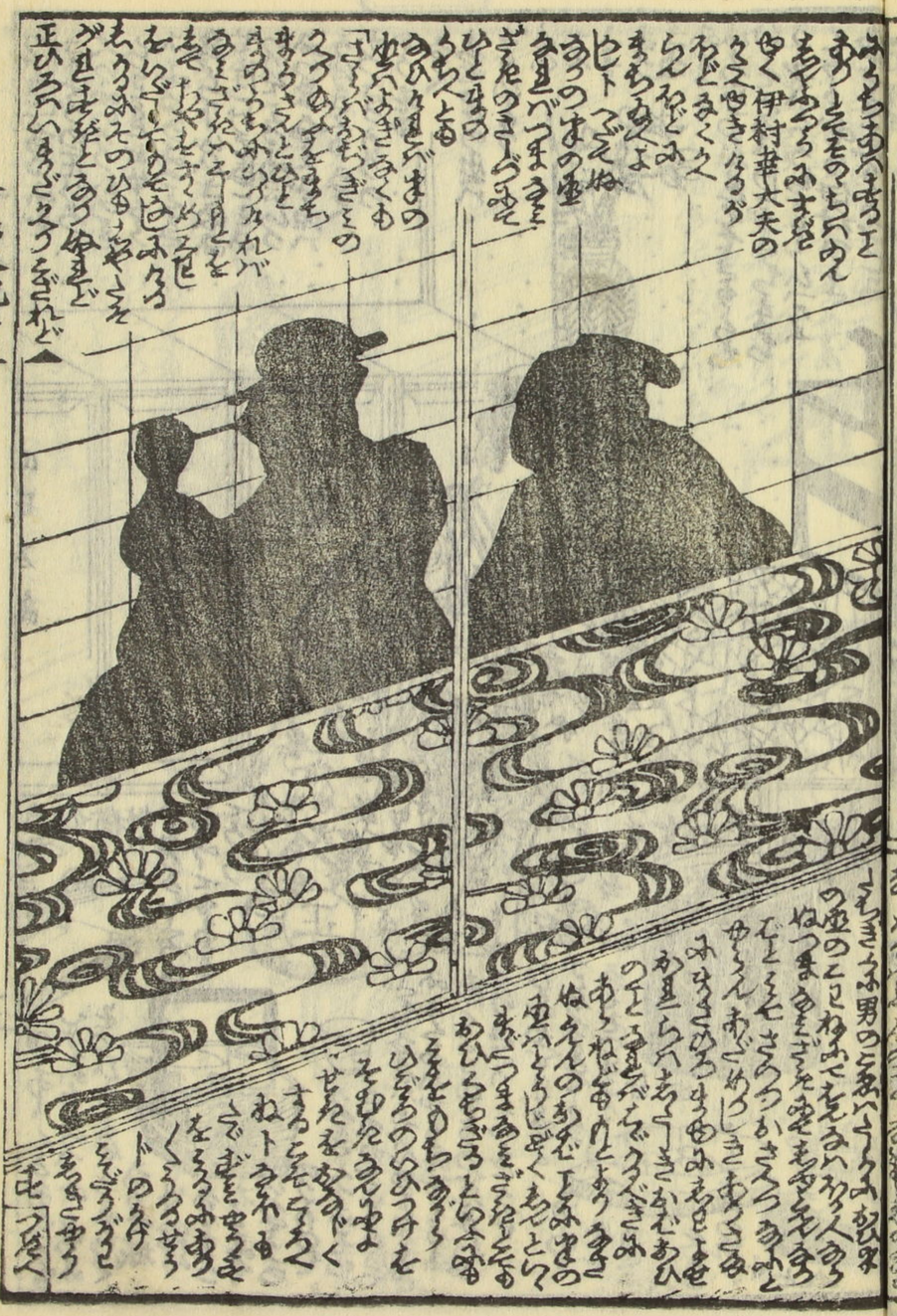
○於玉の方の局
春日野を召捕ま
種々の怪を顕ま

伊村幸太夫光定
伊村愛妾稲穂

正


上使

正

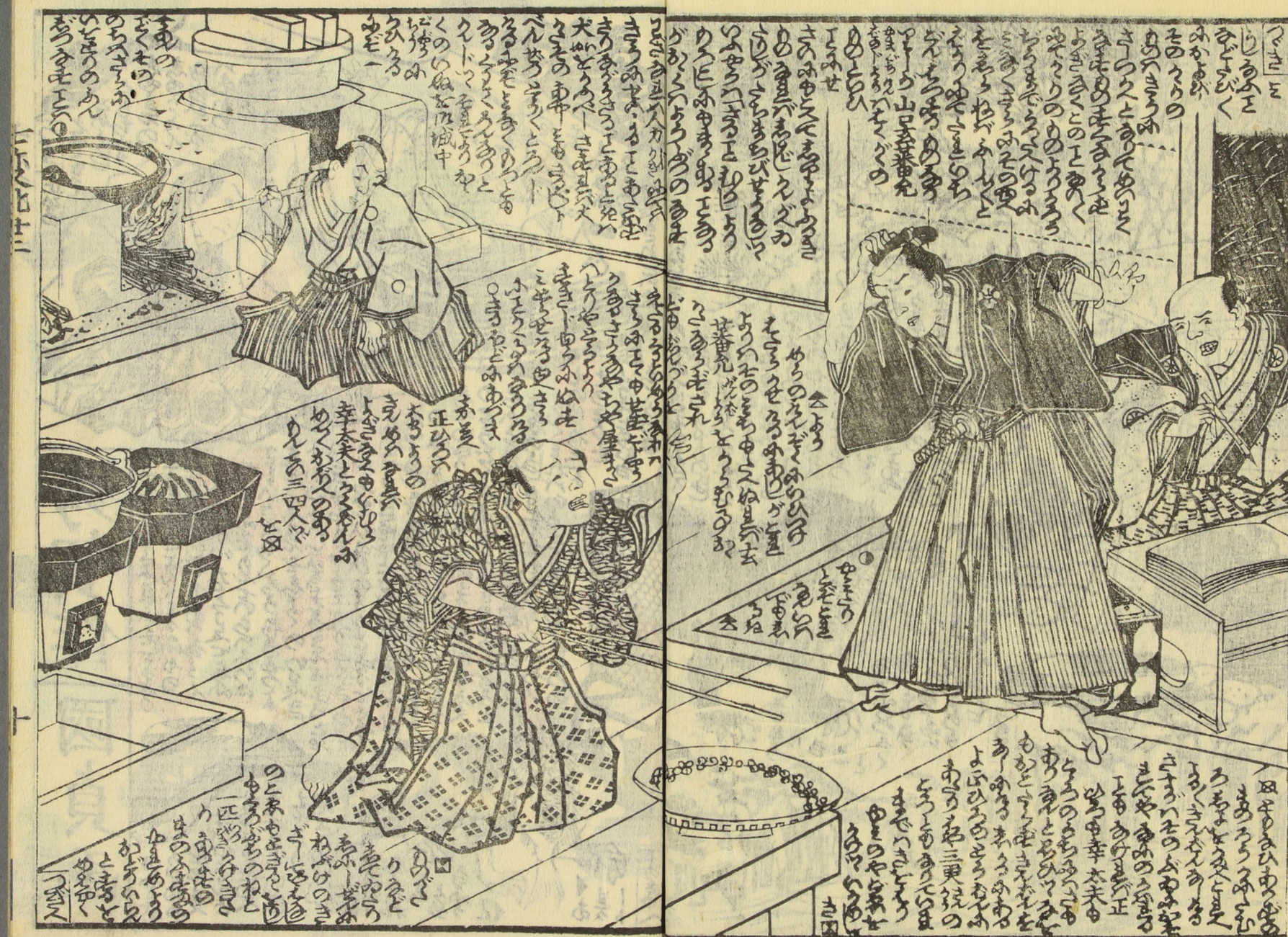


國史畧
史
正
牛
浪

不明の間の怪異

王
春

玉垂の妖猫
つづき



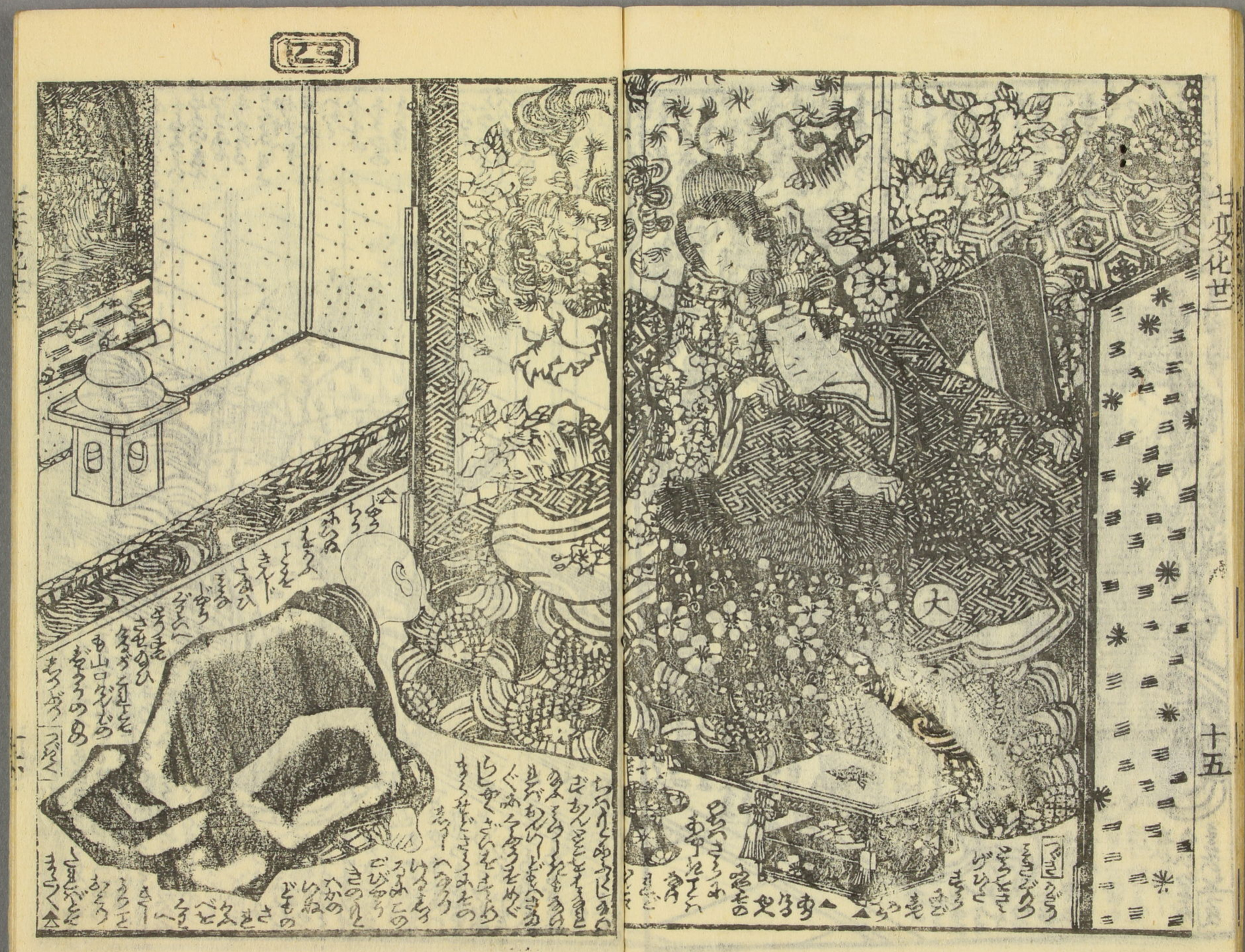
仮名
廿二輯
下之巻
春霞楼
秀賀作
棋楼
國貞画

仮名
廿二
秀賀作
國貞画
正
下の巻へ

金華
七福
化
笑年
武將
あう賀
ものの
ふ負面
辻風
はん

三
上の巻くらべ
幸

春
大
涼



幸

幸

幸
稲

幸
福

鶴亭秀賀作

楳蝶樓國貞画

慶應三年丁卯初春開版目録

浅草刈十社縁起　初編より五編まで當寅秋賣出し申す

宮戸川の網　うなぎ屋の長蝶はじめ十人の草刈社中　天ぷら　すき焼　男女十人の美姫　其外の名妓美男の面々　芝居　とき　いろは　新工夫なり

絵尽作　國貞画

周防深櫻模様　四編　貞雅作　五編　國貞画

梅春霞引始　三編　魯文作　讀切　豊国画

濡衣女鳴神　十編　歌賀作　讀切　國貞画

假枕巽八景　二編　魯文作　讀切　豊国画

道外江戸名所　大錦絵　五枚続　豊国画

神仙　一角丸　気つけ薬　小兒疳癪　諸病に効あり　調合所　上総国東金町　大野傳兵衛

文　地本双紙　問屋　金松堂　横山町三丁目　辻岡屋文助梓